梅雨前に土のう作り

三国で消防署員ら訓練

梅雨を前に嶺北消防本部は三十一日、坂井市三国町新保の福井港北埠頭で、坂井、あわら両市や管内三警察署の職員と共に土のう作りの訓練をした。効率的な土のうの作り方や積み方を学んだ。

消防署員や両市の若手職員、坂井、坂井西、あわら署の警察官計九十人が参加した。消防署員から、砂の量は袋の半分から三分の二にし、口はひねって結ぶなどのこつを聞いた後、二～三人の組になって作った。

土のうは、参加者が声を掛け合ってリレー方式で一カ所に集めた。積むときは向きをそろえ、すき間ができないように重ねていくことがこつ。出来上がった約千個の土のうは、各市や署に持ち帰った。市健康長寿課の笠川美希さん（二四）は「土のう作りは初めて。縛り方が難しかったけれど勉強になった」と話していた。

（本田優子）

出来上がった土のうをリレーで運ぶ参加者たち＝坂井市の福井港北埠頭で

あわら史 簡潔な一冊に

印牧さん発行「若い世代 読んで」

元県文化財保護審議会長の印牧邦雄さん（九三）＝坂井市三国町南本町四丁目＝が「あわらの歴史と文化」と題した本を発行した。「先人が力を尽くしてつくってきた郷土の歴史を多くの人に知ってもらいたい」と、印刷した二百部のほとんどを同市に寄贈した。

編さんに関わった芦原町史が一九七三（昭和四十八）年に発行された直後から「若い世代に読んでもらえるように、いつか平易な文章で簡潔にまとめたジュニア版を作りたい」と思っていた。

あわら市は合併後十二年になるが、市全体を網羅した郷土史がまだ発行されていない。芦原町史と金津町史を中心に、市郷土史学習グループの協力で資料を収集し、市の郷土史の入門編としてまとめることにした。

今年一月から準備に取りかかり、体調を崩した時期もあったが、四月に完成した。「あわらの原始・古代」「中世」「近世」「村々の歴史上の話題」など六章に分け、工業が盛んな金津地区の発展の経過や、あわら温泉街のにぎわいぶりなども掲載。人物紹介では、国鉄三国線の敷設に尽力した政治家の杉田定一、中国の文豪魯迅の師・藤野厳九郎、若くして亡くなった詩人の舘高重を取り上げた。

A5判、百ページ。表紙はJR芦原温泉駅の構内と藤野厳九郎記念館の二種類。「四十年余の念願がかなった。手助けをしてくれた人たちのおかげで予想以上に早く作業が進んだ」と感謝し「世の中のためになる、自分しかできない仕事をまだまだやりたい」と意欲的に話していた。

（本田優子）

◀あわら市の郷土史の入門編として発行された「あわらの歴史と文化」

世界禁煙デー 協力呼び掛け

福井駅西口で県職員ら

「世界禁煙デー（三十一日）」にちなみ、県の職員ら十人が三十一日、福井市中央一丁目のJR福井駅西口で、通勤・通学者に受動喫煙の防止や禁煙を呼び掛けた。

職員らは「世界禁煙デーです。ご協力よろしくお願いします」と声を掛け、たばこに含まれる有害物質や禁煙外来の治療費と治療内容、受動喫煙によって引き起こされる病気や症状などを説明した冊子を配った。

福井国体のマスコットキャラクター「はぴりゅう」も参加し、冊子を配ったり高校生と触れ合ったりした。県健康増進課の半藤貴子さん（四八）は「二年後には国体があるので、たばこの煙の無いクリーンな環境で、おもてなしをしていきたい」と話した。

「世界禁煙デー」は世界保健機関（WHO）が一九八八（昭和六十三）年に定め、九二年には厚生省（現厚生労働省）が五月三十一日～六月六日を禁煙週間とした。

（中場雅己）

禁煙外来の内容やたばこの害など説明した冊子を受け取る通行者＝JR福井駅で

ワイン 低温熟成へ

大野の荒島風穴に搬入

明治期にカイコの低温保存に利用されていた大野市の荒島岳（一、五二三メートル）中腹にある荒島風穴で三十が就く。六月一日から設立

この日は、市内の日本酒とワインの醸造会社五社の計約三百本を、農林楽舎の